

## ■ 書 評



学校危機とコンサルテーション—いじめ・虐待・体罰・性的被害・犯罪・事故・自殺—

細田眞司, 大西俊江, 河野美江  
編著

新興医学出版社

2015年5月 228頁

本体価格 3,200円+税

近年、精神科開業医が近隣の中学校や高校の校医を委託される機会が増えています。これは、もちろん、学校保健における「心の危機」への対応が喫緊の課題になっているからですが、いざ事例の相談を持ち込まれると、一般の臨床医にとって難しく感じられることが少なくありません。それは、手間暇をとる業務の負担もさることながら、個々の患者への個別対応を診療のルーチンにしている大方の精神科医には不慣れな事態や状況に遭遇するためです。学校現場における「心の危機」への対応が求めているのは、いじめを受けたり、発達障害が疑われたりする学童個人やその家族への対応のみならず、そのクラスメートや教員を含むクラスの構成員の総体、さらには学校全体のシステムといったより大きな構造への介入と支援です。しかも、しばしば事は緊急を要することがあります。受診する患者を診察室で待つという日常診療のスタンスは通用しません。スクール・カウンセラー（SC）や養護教員、そして管理職教員らと連携しながら、学校というシステムにかかわるという姿勢が求められます。それは、コンサルテーションと呼ばれるかかわり方です。

本書は、島根県における学校現場の緊急支援活動にかかわった精神科医や臨床心理士らの共著によるものです。著者のひとり、臨床心理士の大西氏は、SCとして最初にかかわった当初は、先に述べたような一般の精神科医と似たようなスタンスであったといえます。しかしながら、「SCが限られた勤務時間内で個別のカウンセリングを行うの

みでは効率的ではなく、むしろ問題を抱えた児童・生徒にかかわる教師に対して臨床心理の専門家としての視点でコンサルテーションを行うことが有効であることがわかってきた」といいます。本書では、学校における緊急支援と危機対応について、コンサルテーションの基本的要点をわかりやすく示すとともに、それぞれ特徴的な事例（事態）対応の実際を示しています。

本書を手にとった読者は、まず大西氏による2章「緊急支援・危機対応の実際」から読み始め、いじめ（3章）と性暴力被害（4章）のコンサルテーションへ進んで、後半のケース・スタディに目を通すのが良いでしょう。興味深いのは、ケースがいかにも現代の学校の「心の危機」の諸相を映していることです。生徒のいじめや自死、被虐待の問題だけではなく、インターネットに絡むトラブルや教師の不祥事や体罰、交通事故も取り上げられています。当然ながら、マスメディアへの対応も心得ておかなければなりません。万一、校医として、そうした事態への緊急支援を要請される際には、本書のケース・スタディはきつと心の支えになることでしょう。

ケース・スタディを通読した後、最後に精神科医、細田氏による冒頭の章「危機対応のコンサルテーション」を読んでみましょう。そこには、短いながらも、「コンサルタントはコンサルティの領域では素人」、「関与しながらのコンサルテーション」、「誰がコンサルティか」、「組織の見立て」などの見出しで、コンサルテーションのコツが覚書風に記されています。実は、コンサルテーションの経験は、精神科本来の対人支援技術を補完するものであることに気づくと思います。学校保健に精神科医としてかかわることの意義が見出されるのではないのでしょうか。

なお、本書カバーに描かれた空飛ぶ鯨の装画は、イラストレーター、泉雅史氏の「ぞろぞろ」という作品です。本書の少々重い内容に疲れた心が癒されます。

（黒木俊秀）